

つづやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

子どもたちに寄り添うことの大切さ

日本教職員組合 女性部長（茨城県教組） 小澤 利野

今年の成人式の祝いの席に招待され、会場に出向きました。「先生、久しぶりです。変わっていませんね。」一人ひとりの名前がなかなか出てきませんでした。が、中学時代の面影は残っていました。立派に成人した子どもたちに会い、感無量でした。私に近づき挨拶をしていく子、頭だけ下げにっこりしている子、恥ずかしそうに話に来る子、子どもたちの個性が出ているように思えました。そんな中、私に4～5人が近寄ってきました。あの子たち、今日来てたんだ。「先生、その節は迷惑をかけました。」えっ、こんな言葉が言える子どもだったかなと耳を疑いました。私は「先生は、みんなの話をきちんと聞いてあげられなかったよね。ごめんね。怒ってばかりいたでしょう。今思うと恥ずかしい。」すると「そんなことないです。先生はたくさん話を聞いてくれましたよ。怒ってくれたのも自分たちのことを思って真剣に怒ってくれて、実はうれしかったのです。放課後受験のために、時間をさいて勉強も教えてもくれたでしょう。自分たちにこんなに近寄ってくれた先生はいなかったです。」私は涙がこみあげてきました。荒れていた

子どもたち。私はその当時、何をしてきたのだろう。厳しく接してきただけではなかったのか。その子たちが今、私の目の前でこんな話をしてくれるとは。とても意外でした。どんな子どもにも、真剣に向き合うことで、子どもの心は開けるのだと感じたひと時でした。そして、そんな気持ちにさせてくれた教え子を私は誇りに思いました。今、学校現場が忙しく子どもと寄り添う時間がもてないと言われていきます。そんな時だからこそ、もう一度語り合うことを考えなければならぬと思います。子どもたちの声に耳を傾け、自らが一人ひとりに寄り添っていくことこそ、教育の原点なのではないかと改めて感じました。成人式でのたった数時間の出来事が私の心を豊かにしてくれました。「先生をやっていてよかった。」と思った瞬間でもありました。

